

【 みえないものからみえるもの 】

会 期： 2020年12月8日（火）～12月25日（金） 8：30 ～ 20：00
※土・日・祝日休館

会 場： 天王洲セントラルタワー1F・アートホール
(<https://www.e-tennoz.com/areaguidance/arthall.html>)

観 覧 料： 無料



作家

敷根功士朗、柴田まお、副島泰平、
本間純、村岡佑樹（50音順）

今年ほど「みえないもの」について想いを巡らせた年はないと思う。コロナウィルスという目に「みえないもの」に大きな影響を受け、我々の生活は変化を余儀なくされた。

今まで当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなかったと気づかされたとき、「みえるもの」ばかりが中心だった世界には、確かに「みえないもの」から「みえるもの」まで存在しているのだと気付かされた。

今回の展覧会では、そんな“みえないものからみえるもの”と、“みえないものからみえるもの（みえてくるもの）”について考えたい。

彫刻を学び写真作品を制作する副島は、みえるものをカメラで写し出しながらも、みえすぎること逆にみえなくなるような作品を制作している。

近年、映画制作を精力的に行なっている敷根の作品は、映像として映し出されない裏側が魅力の作家だ。

ある場所の記憶や歴史にフォーカスする村岡は、そこに存在する作品そのものより、それらを構成する要素が内包する背景や時間の経過を表現している。

柴田の作品はそこに存在するのに存在しないように映る、まさにみえないものからみえてくる作品だ。そんな4人の若手作家に加え、一貫して「不可視性」をテーマに彫刻作品を制作している本間純さんをお招きし、展覧会のテーマについて考えを深めていきたい。



【企画】 東京藝術大学美術学部彫刻科金属研究室
【協力】 中川特殊鋼株式会社

【アクセス】

- 東京モノレール「天王洲アイル」 中央口よりスカイウォークで直結（浜松町駅より東京モノレール5分）
- りんかい線「天王洲アイル」 B出口よりスカイウォークで直結（りんかい線大崎駅より8分、新木場駅より10分、JR1埼京線直通）
- 品川駅より徒歩12分、バスにて5分

展覧会場： 天王洲セントラルタワー1F・アートホール

住 所： 〒140-0002 東京都品川区東品川2-2-24

電 話： 03-5462-8811

